

障害のある人を対象としたオープン・カレッジの実施

— 発達障害のある高校生の進路選択支援・知的障害のある人への学習機会の提供—

薬師寺明子・おかやま発達障害者支援センター（発達障害のある高校生の進路選択支援のみ）

I. はじめに

1. オープン・カレッジとは

2023 年 12 月に発表された文部科学省の学校基本調査(確定値)によると、2023 年度の大学進学率は前年度から 1.1 ポイント増の 57.7%であり、8 年連続で過去最高を更新した。短期大学と専門学校を含む高等教育機関への進学率は前年度より 0.2 ポイント増え 84.0%で過去最高だった。高校を卒業後に 8 割を超える人が高等教育機関に進学していることになる¹⁾。また、多くの人が市民講座やカルチャーセンター、老人大学等で生涯学習、生涯教育等として学ぶ機会を得ている。しかし、知的障害のある人の場合は特別支援学校卒業後、大学等の高等教育を受ける機会がないのが現状である。

2014 年に障害者権利条約に批准し、2016 年には差別解消法も施行等から、共生社会の実現に向けた取り組みの推進が必要である。学習機会の少ない知的障害のある人への学習機会の提供は、教育の権利保障、教育機会の均等のためにも必要である。こうした背景から文部科学省も取り組みを推奨している。

学習機会の少ない知的障害者を大学に招き、講義を受けてもらうという取り組みのことをオープン・カレッジという。オープン・カレッジは 1995 年、東京学芸大学において、大学教員や付属養護学校(現在は特別支援学校)、多摩地域の養護学校教員の教員等で構成している「養護学校進路指導研究会」が、特別支援学校を卒業した知的障害のある人を対象に大学公開講座「自分を知り、社会を学ぶ」を開講したのが始まりである。1998 年に大阪府立大学安藤研究室がオープン・カレッジとして活動を始め、活動に賛同した大学関係者を中心に広がりを見せ、1999 年度には武庫川女子大学、2000 年度には桃山学院大学が開講した。その後、宮城大、徳島大等でも開講し全国的に広がった²⁾³⁾。近県では、島根大学が 2007 年に学生らが中心となりオープン・カレッジ実行委員会を立ち上げ、2008 年 10 月から2年を1期とする「知的に障害のある人のオープンカレッジ in 松江」(毎年度秋・春2日間ずつ開講)を開講している⁴⁾。

オープン・カレッジには三つの理念①知的障害者の人権(教育を受ける権利)の保障、②知的障害者の変化(発達)の可能性の保障、③地域社会に対する大学の貢献がある。オープン・カレッジは知的障害のある人に、ただ学ぶ場を提供するだけではなく、「教育権」や「発達保障」について実践を通して実現しようとする取り組みである。

2. 本報告について

本報告は、発達障害者支援センターと協働で実施している、発達障害のある高校生を対象とした進路選択支援「オープン・カレッジ in 美作大学」及び、学生が主体となって実施している知的障害のある人を対象としたオープン・カレッジ「きんちゃい みまさかれっじ」についての実践内容である。

II. オープン・カレッジ in 美作大学

1. 実施背景

近年、普通高校に進学した知的障害を伴わない発達障害のある生徒の教育上の支援、特に進路選択支援については、多くの課題がある。おかやま発達障害者支援センター県北支所(以下;支援センター)においても、普通高校等に在籍する生徒からの相談が、多く寄せられている。当事者の「自己理解」や家族の理解が進路選択にお

いては必要であるが、その理解を進めていく上で困難さがあるようである。

そこで、この現状の課題解決にむけ、2013 年度から支援センターと薬師寺研究室が協働し、発達障害のある人を対象としたオープン・カレッジを企画・実施している。なお、2013 年度は試行的な実施、実践報告として地域生活科学研究所を主催とするシンポジウムを実施しすることで、地域に活動を公開し、2014 年度より本格的な実施となった。2015 年度より、地域生活科学研究所からの助成を得て毎年実施している。

2. 実施内容

1) 企画：筆者及び支援センタースタッフ

2) 実施日：2023 年 6 月 10 日(土) 6 月 17 日(土)

3) 実践者：

- ①全体の運営：筆者及び支援センタースタッフ
- ②参加者へのサポーター及びスタッフ：薬師寺研究室ゼミ生(3 年生 5 名・4 年生 9 名)。
- ③講義の際の講師：大学教員及び大学職員
- ④模擬作業：大学附属図書館・学生募集広報室より事務作業提供

4) 参加者：普通高校に通う発達障害のある人で、進路選択支援が必要であり、学校に安定して通うことができている状態にある 4 名。参加にあたっては、所属校の担任、特別支援教育コーディネーター、相談室の教諭等が、参加者・保護者と相談の上、申し込む形式をとった。①参加者・保護者にプログラム概要の説明、②保護者や所属校の担任等から参加者の配慮点の聞き取り、③参加者同士のグルーピングの検討、④参加者と学生サポーターのマッチング等を目的として、支援センターが所属校への事前に訪問し、面談を実施した。

5) 倫理的配慮：プログラムの評価研究に関する参加者への同意および個人情報の記載等については、事前訪問時に参加者に説明を行い、書面にて同意を得た。

3. 実施の流れ

1) プログラム実施前：支援センターが参加者の所属校に事前訪問を行い、得られた配慮点等の情報をもとに運営スタッフで企画会議にて共有。

2) プログラム期間：1 クール 2 日間。土曜日を利用し、1 回 5 時間程度(表 1)。

表 1 スケジュール

1 日目	2 日目
オリエンテーション (15分)	
講義Ⅰ (45分) (アンケート記入含む)	講義Ⅱ (45分) (アンケート記入含む)
休憩 (10分)	休憩 (10分)
マナー講座Ⅰ (20分)	マナー講座Ⅱ (20分)
グループワーク (30分) (アンケート記入含む)	グループワーク (30分) (アンケート記入含む)
昼休憩 (60分)	昼休憩 (60分)
模擬作業Ⅰ (90分) (1日目と2日目でグループを入れ替える)	模擬作業Ⅱ (90分) (1日目と2日目でグループを入れ替える)
グループワーク (30分) (アンケート記入含む)	グループワーク (30分) (アンケート記入含む)
	全体の振り返り (15分) 修了証書授与

内 容 と 役 割 分 担		
講 義	講義Ⅰ 「働く上で大切なコミュニケーション」 (キャリアコンサルタント資格を持つ 大学職員が担当) ①学校と職場の違い ②挨拶について ③報告・連絡・相談 (ホウレンソウ)について	講義Ⅱ 「基本的な生活習慣の大切さ」 (看護師資格を持つ大学教員が担当) ①学校と職場の違い ②朝ご飯を食べること ③睡眠時間の確保 ④朝の準備や段取り ⑤身だしなみを整える
	マナー講座Ⅰ (社会福祉学科の学生が担当) ①挨拶と報告をする時は ②作業中の指示 ③質問をするタイミング	マナー講座Ⅱ (社会福祉学科の学生が担当) ④寝る前の過ごし方 ⑤出勤の際に ⑥身だしなみの整え方
模 擬 作 業	模擬作業Ⅰ 「図書館作業」 (附属図書館職員が担当) ①抜き取り作業 ②返却作業	模擬作業Ⅱ 「事務作業(実習日誌作成)」 (支援センター職員が担当) ①ラベル印刷 ②ラベル貼り ③用紙のとり込み

図 1 プログラムの内容と役割分担

3) プログラム内容：「働くことを知る・学ぶ」をテーマとして、①講義、②マナー講座、③模擬作業を実施(図 1)。それぞれの内容を振り返るため、実施直後にアンケート記入し、それらをもとにグループワークを実施した。プ

プログラム終了後は、当日参加したスタッフで事後ミーティングを実施した。

4)参加者及び支援者の動き:グループワークや模擬作業は 2 グループに分け、模擬作業は「事務作業」と「図書館作業」を準備している。通常は、グループを半分に分けて、1 日目と 2 日目で作業を変えて実施しているが、参加者が 4 名ということで、1 日目に「事務作業」2 日目に「図書館作業」を実施した。参加者の個性や特性を配慮してグループを分けている。参加者への直接的な支援は、2 日間同じ学生が「学生サポーター」として、配置している。参加者が困った時や分からない時の支援者として、ペアとなって支援者として役割を担っている。また、サポーター以外の学生は「学生スタッフ」として、プログラムの準備や片づけ、模擬作業の際の見本や見守り等を行った。



写真1 講義「基本的生活習慣の大切さ」



写真2 グループワーク



写真3 模擬作業 事務作業①



写真4 模擬作業 事務作業②



写真5 模擬作業 図書館①



写真6 模擬作業 図書館②



写真7 模擬作業 図書館③



写真8 模擬作業 図書館④

5)プログラム実施後:支援センターが参加者の所属校を訪問(事後訪問)し、事後面談を行った。保護者、担任、特別支援教育コーディネーター、相談室教諭等に可能な範囲で同席してもらい、参加者にプログラムの感想等を聞き取った。また、プログラムを通して得られたことに関して、学校生活(学外実習等)や家庭生活で取り組めそうな点について提案。後日、総括としてスタッフ(学生除く)で反省会を実施した。

3. 実施結果及びまとめと今後の課題

新型コロナウイルス感染の影響で数年間配慮しながら実施していたが、今年度からほぼ通常通りの内容で2日間実施することができた。今年度は4名の参加であったが、参加者やその保護者がこの取り組みにとっても期待して参加してくれており、高校教諭の見学もあった。大学で学ぶこと、自己理解を意識しながらの模擬作業の経験、学生との関りは、通常の高校生活では得られない経験であり、参加者にとって、得られたことは多くあったようである。学生サポーターや支援者がいることで、安心して参加でき、そこでの成功体験を得て、自己理解を深め、進路選択への手がかりをいくらか得られたのではないだろうか。

学生サポーターや学生スタッフとして参加してくれているゼミ学生にとっても、参加者との関りや支援を通して、特性の理解や声掛け等の支援方法等を考える機会を得ることができた。2日間、1日ごとプログラム終了後に、振り返りを行った。参加者の状況や支援内容、プログラムについての振り返りは、学生が支援者としての学びを深めるとともに、次の支援につながる貴重な機会である。

Ⅲ. きんちゃい みまさかれっじ

1. 実施背景

2014年度3年生のゼミ生がオープン・カレッジを企画し、2015年度から「学習機会の少ない方を大学に招いて講義を受けてもらう」「大学の講義で得た知識や経験を基に、地域でいきいきとした生活を送ることにつながってほしい」という目的としてスタートし、新型コロナウイルス感染拡大の期間も休まず実施している。

2. 実施内容

2023年度4年生のゼミ生9名、3年生のゼミ生5名が企画、実施した。

1) 実施日及び科目

前期:2022年10月21日(土) 予定していたが、講師の都合により中止となり、講義は次年度に延期。

後期:2022年11月11日(土)

参加者:知的障害のある成人 3名

内容:オリエンテーション・発酵学(講義)・発酵学(実験)・振り返り

①発酵学(講義):講師は高田勇人氏

②発酵学(実験):講師は高田勇人氏



写真9 オリエンテーション



写真10 発酵学①

表2 きんちがい みまさかれっじ (2015-2022)

2015 年度	前期：1 日目 全体講義「文化人類学」・選択科目「英会話」「音楽」 2 日目 全体講義「料理」交流会 後期：1 日目 「工作」「悪徳商法対策講座～あきらめない～」 2 日目 「科学実験」交流会
2016 年度	前期：1 日目 「パソコン」「マナー講座」 2 日目 「栄養学」「護身術」交流会 後期：1 日目 「和菓子作り」「茶道」 2 日目 「災害学習（消防署見学）交流会
2017 年度	前期：「ストレッチ」「口腔ケア」振り返り 後期：「フラダンス」「経済学」振り返り
2018 年度	前期：「防災学」「工作」振り返り 後期：「歴史学（津山）」「ボッチャ」振り返り
2019 年度	前期：「保健学」「声楽」振り返り 後期：「調理実習」「栄養学」振り返り
2020 年度	前期：「心理学」「コミュニケーション学（手話）」振り返り 後期：「食品学」「美作大学図書館利用ガイダンス」振り返り
2021 年度	前期：公衆衛生学」「家政学（被服）」振り返り 後期：「気象学」「防災学」振り返り
2022 年度	前期：「SDGs」「防犯学」振り返り 後期：「パラスポーツ学」「パラスポーツ実技」振り返り



写真1 1 発酵学②



写真1 2 発酵学③



写真1 3 発酵学④



写真1 4 発酵学⑤



写真15 発酵学⑥



写真16 最後に記念写真

2) 実施結果及びまとめと今後の課題

例年2日間で前期と後期を実施しているが、今年度は前期が急遽中止となり、後期だけの実施となった。発酵学は実験でパンを作るということで、新規で参加された方が多かった。他学科の教員に講師を紹介してもらい、発酵学の専門家に講義と実験を実施してもらうことができた。準備段階からハプニングも多々あったが、他学科教員の協力もあり、参加者も学生も達成感のある1日となった。

また、以前から交流のある島根大学の「知的に障害のある人のオープンカレッジ in 松江」との交流も実施することができた。2022年3月、2023年3月に実際にオープン・カレッジに参加することができた。また、学生同士の意見交換会も行った。

学生が主体となって、企画、運営をしており、実施までに様々な行程がある。講義内容の検討、講師探しと連絡調整、参加者募集の広報活動、講師との打ち合わせや当日資料のルビふり等、多くの準備をして、当日を迎えている。学生は実習やゼミ活動をしながらの準備を行い、一人ひとりが役割をもって取り組んでおり、学生の成長の機会ともなっている。

2015年度から始めた小さい活動ではあるが、岡山県でのオープン・カレッジは本学だけである。今後でも継続できるよう努めていきたい。



写真17 知的に障害のある人のオープンカレッジ in 松江



写真18 島根大学学生との意見交換会

参考文献等

- 1) 文部科学省 令和5年度学校基本調査(確定値)。
- 2) 建部久美子編(2001)「知的障害者の生涯教育の保障ーオープン・カレッジの成立と展開」, 明石書店。
- 3) 杉本正・兼松美幸(2010)「実践報告『オープン・カレッジの展開』」, 帝塚山大学心理福祉学部紀要。
- 4) 京俊輔・薬師寺明子(2018)「オープンカレッジに取り組む中国地方の大学間交流」, 障がい者生涯学習支援研究, 第3号。